

なちかつうら 那智勝浦町



つつじ



かし

HPアドレス <http://www.town.nachikatsuura.wakayama.jp/>

町名の由来

1955年（昭和30）年に勝浦町・那智町・宇久井村・色川村が合併し、那智勝浦町が誕生しました。その後、1960（昭和35）年に太田村と下里町を編入し、現在の町域になりました。「那智」は「那智荘」というこの地の中世の荘園名が由来したもので、「勝浦」は勝浦湾に植物の葛の蔓のように突き出た半島を「迦都宇良（かつうら）」と言われ、それが由来したものとされており。

町章の由来

町の平和と団結を表す円形に日本一の滝である那智の滝を簡潔に表したものを中央に配したもので、色彩の青色は熊野灘の海の色を表しています。（このデザインは、一般公募され1964（昭和39）年10月1日に制定。）

町の紹介

那智勝浦町は、南紀熊野観光の中心地として賑わい、日本一の生鮮マグロの水揚げで有名な勝浦漁港や、県内一の源泉数を有する温泉、日本一短い二級河川として認定されたぶつづつ川（13.5m）、世界遺産に登録された日本一の那智の滝（高さ133m）、熊野那智大社、那智山青岸渡寺など、豊かな自然と歴史、そして温泉リゾートの町です。

那智勝浦町では、豊かな自然や環境、歴史的文化遺産を大切に守り、それらの恵みと地域の個性を活かした産業を育成し、人々にやすらぎと活力を与え、文化の香り高いまちづくりをめざしています。さらに「豊かさやさしさが溢れる那智勝浦町」の実現を図ることを将来像とし、次の5項目を基本方針としています。

- ①快適で安心して暮らせるまちづくり
- ②地域の個性を活かした活力のあるまちづくり
- ③健やかでやさしいまちづくり
- ④人間性をはぐくむまちづくり
- ⑤町民と行政がともに歩むまちづくり



那智ノ滝

たいじ 太地町



浜木綿



いそひよどり



浜せんだん

HPアドレス <http://www.town.taiji.wakayama.jp/>

町名の由来

太地という名の由来は不明。

町章の由来

太地町の「T」を図案化し、伝統の鯨を象徴し、円は町民の和を表徴し、▼は町の躍進をあらわし、色は緑で国立公園地帯を意味します。

町の紹介

総面積5.96km²と県下でも一番小さな町ですが、三方を海で囲まれており、黒潮の影響で温暖であり、町を取り囲む海岸は勇壮明媚を誇っています。

また、太地は古くから古式捕鯨の発祥地として全国的にも知られており、これらの特色を生かして「くじらの博物館」や「水族館」を中心に観光の町を目指しています。

地域の特長を生かした特色ある町づくりを目指し、環境に配慮した町づくり、健康で幸せな町づくりなど、多様化する町民の期待にこたえられる町づくりを目指すとともに、都市型観光開発の形態をとらず、町全域を人々の心を和ませるリゾート地とし、さらに観光立町を目指します。



鯨取埼灯台

くしもと
串本町

すいせん



めじろ



きんかん

HPアドレス <http://www.town.kushimoto.wakayama.jp/>

町名の由来

本土と潮岬をくし刺しにしたような地形であるため、といわれています。

町章の由来

「串」の字をモチーフに、緑で陸地、青で大海原、オレンジで人の力を表現し、それらの組み合わせによって人と自然が生み出す力、未来へと向かって伸び行く姿を表現しています。

町の紹介

串本町は、紀伊山地を背に潮岬が雄大な太平洋に突き出した本州最南端の町です。

2005（平成17）年4月1日、旧串本町・旧古座町が合併し、「新生・串本町」になりました。

11月には、沿岸海域が世界最北限のサンゴ群落として「ラムサール条約」に登録され、八丁トンボの生息地である「田原湿地」は、環境省の「日本の湿地500」にも選ばれるなど、多くの自然に恵まれています。

水産業は、回遊魚や伊勢エビ・アワビ・サザエなどの水揚げも多く、古くはハマチの養殖が盛んで、近年ではマグロの養殖にも成功しました。果樹・花卉栽培などを中心とした農業や、良質のスギ・ヒノキなどを生産する林業・新鮮な海の幸を使用した加工製造業、観光と農林水産業の連携による体験型観光の充実も図っています。

なお、大島と本土を結ぶ「くしもと大橋」が1999年9月に完成し、エルトゥール号で有名な「トルコ記念館」や「日米友好記念館」等の国際交流を物語る建造物及び、我が国最古の石造り灯台「檜野崎灯台」がぐっと身近になりました。

このように、先人が残してくれた自然・歴史・文化の保護を図りながら、人と自然が共生できるやさしい町づくりに取り組んでいます。



くしもと大橋

こざがわ
古座川町

やまざくら



うぐいす



すぎ

HPアドレス <http://www.town.kozagawa.wakayama.jp/>

町名の由来

古座川には、奇岩巨岩が多く分布しており、古くから岩壁を神々の座「神座」とした。

それにより「神座川」となり「古座川」となったと考えられています。

町章の由来

古座川中央の「古」はますます雄飛する姿を表現したもので、末広の形で示しています。三本線は清流古座川を表したものです。

町の紹介

古座川は豊富な水量と水質のよさにおいて日本有数の清流であり、とりわけ小川流域の透明感はずばらしいものです。また、川沿いには奇岩名峰が並ぶ雄大な風景を見せ、訪れる人々に感動と心の豊かさを与えています。

近年、カヌーや観光火振り漁など地域の資源を生かした体験型レクリエーション地として、自然を求める人々や家族連れ客などが増えています。

町を代表する特産物である柚子製品は、「古座川ブランド」の旗手として注目されています。また、山間の気候や日照条件を利用して栽培されるシキミや千両など、地域性を生かした産業づくりを目指しています。

「清流に元気あふれるまち“古座川”」をキャッチフレーズに、町民の声を聞くことから始まるまちづくり、交流が育むまちづくりを進めています。



一枚岩



しゃくなげ



じゃばら

HPアドレス <http://www.vill.kitayama.wakayama.jp/>

村名の由来

この地域が紀州領であったころより北山とよばれており、1889（明治22）年の町村制により近郷5か村が合併して北山村が誕生しました。

村章の由来

「北」の文字を図案化して「山」形を構成し、村民相互の協力と栄光を表現しました。

村の紹介

村史は縄文時代に遡ります。彼等は豊かな土地を求めて移り住みました。熊野川上流でここ北山だけに縄文遺跡があることを思えば自然の豊かさがしのべれます。四季折々に彩られる自然が美しい北山村は総面積98%を占める深い森林と、清流北山川が、様々な生き物を育ててきました。その豊かな自然は今なおそのままに残されており、都会にはない、辺境のリゾート地となり自然に憧れる多くの観光客で賑わっています。北山村は周辺を三重・奈良両県に囲まれ和歌山県のどの市町村とも隣接しない日本で唯一の飛地の村で、又、奥瀨峡の激流でスリルを楽しむ日本で唯一の観光筏下りや、幻の果樹であるじゃばら（柑橘類）を栽培する唯一の村で活気に溢れています。

北山村は、山や川の自然の豊かな村です。その自然を生かし活気ある村づくりを目指し次の取組をしています。

- ①農林業の振興、特に「じゃばら産業」の育成と販路拡大。
- ②豊かな自然を生かした観光事業、「観光筏下りと伝統技術の伝承」「おくとり公園（総合グランド・オートキャンプ場・テニスコート・バンガロー等）」「おくとり温泉」等。
- ③北山村からの情報発信（ホームページ・村ぶろ・じゃばら直販サイト）等。
- ④道路整備の推進、道路整備を促進し、京阪神との人と物の交流。
- ⑤「若者定住政策」により元気のある村づくりを目指すと共に高齢化社会で安心して暮らせる福祉行政を推進。
- ⑥小中連携教育を進め、更に英語を通じた国際理解教育を強化して、将来の社会変化に対応し、豊かに生きる事のできる人材育成。



観光筏下り